

# 家庭教育だより

筆者 「ハートの会」 水崎・大谷・橋・中島・高山

発行 白井市教育委員会生涯学習課 ☎401 8942



54号

令和7年9月1日発行

## 子育てのこと、誰かと話していますか

子育て中のみなさん、こんにちは。みなさんは子育てのこと、誰かと話していますか。今回家庭教育だよりを担当させていただく私たちは、不登校について考えたり、安心して話せる居場所を作ったりする活動をしています。毎月、話をしたい人たちが集まって、我が子の話をしています。あれこれ悩んでいることから話は始まりますが、話しているうちに本当に大事なことに気づかされて、我が子の理解へとつながっていきます。同じ経験をしている仲間や、かつて同じ思いをした先輩たちと話しながら、自分を見直していくこともできるのです。

我が子と過ごす子育て時間はあっという間に過ぎてしまいます。だから子育ては楽しんで欲しいと思うのですが、悩んだり困ったりは常について回ります。そんな時、誰かと話してみませんか。嬉しいことに気づかされたり、解決の糸口が見つかったり、一人じゃないと安心することでしょう。

子育ての先輩たちの体験談を聞いてみませんか。



### 《 親は子どもの伴走者 》

赤ちゃんの頃は立てば喜び歩けば拍手…素直に喜んでいたのに、幼児期になるといつの間にか周りと比べるように。かわいいからこそ子どもの転ばぬ人生を望み石ころを取り除き、最短で成功に導くため塾や習い事にお金も労力も費やしました。

『押しつけの人生はおかしい』。中学生になった息子に反抗という形で私は教えられたのです。幸せを願ってのよかれは子どもにはありがた迷惑に過ぎず、私のエゴだったのだと気づきました。今子育てを振り返ると、世間からの評価ではなく存在をありのまま認めてあげればよかったなと思います。

「嬉しいね」「楽しいね」「痛かったね」「悲しいね」気持ちに寄り添ってあげれば土台が育つ。

人生の強風にも耐えていけるしっかりした根っこをはる為の幼少期は大切な時期。

「いいお母さん」になろうと肩肘はらず、子どもの伴走者くらいの楽な気持ちで一緒に楽しめばよかった。それで充分。きっと子どもは自分の力で素晴らしい幹に育ってってくれるでしょう。



### 《 愛の循環 》

やっと授かった我が子。ただただ無事に産まれてくれるだけでいいと思っていたはずが、すっかり忘れて自分の理想に引っ張っていました。当時、専業主婦だった私は、子育ては「私の仕事」と思っていました。子どものためと思いながらも、実は自分が評価される子育てになっていたのです。「挨拶はきちんとしなさい」「時間は守る」など、当たり前ができなくちゃダメ！な子育て。そんな毎日でした。だから学校に行けなくなった時は私の責任だと思い、



自分を責めました。そんな時に「お母さんの責任じゃないですよ」と教えてくれたのは、かつて同じ経験をしたお母さんたちでした。私は、私の居場所となったところでたくさん話を聞いてもらいました。だんだんと私の子育てにも余裕ができてきたように思います。

親の笑顔は子どものエネルギーになります。イライラする事もありますが、そんな時は頑張っている自分をたくさん褒めてあげて下さい。自分時間は絶対に必要で、子どもを思う愛を自分にもあげて欲しいのです。そうしたら、もっと子どもを愛せます。そして自分も愛せます。そこに愛の循環ができます。



## 《 笑顔で自分自身の人生を楽しむ 》

子育ては「手をかける 目をかける 心をかける」

この言葉は、第一子の幼稚園選びの際に、ある幼稚園の園長先生から教えていただいた言葉です。初めての子育てに一喜一憂し、育児書や周りの子の成長と比較しては焦るような毎日で、子育てがこんなに変容することなど想像も出来ていない頃でした。二人の子どもが成人を迎え、この言葉通りの関わりを辿りました。そして、ふと愛おしく思い出す子どもとの時間は、今皆さんが必死で向き合っている「手をかける」時期の子ども達の姿です。

子どもは「心配」するより、「信頼」されることで自信を持って進みます。失敗した時に振り返れば「大丈夫だよ、どんなあなたでも味方だよ」と笑顔で立っている人がいること。前からこっちだよと手招きするのではなく、後ろにただいるだけで良いのだと我が子から学びました。

子どもは親の背中を見て育つと言います。いったい何を見せたら良いのでしょうか？私は「笑顔で自分自身の人生を楽しむ」ことだと思えます。私達が子どもの笑顔を幸せだと感じるように、子ども達も私達親の笑顔が嬉しいのです。その為に毎日お子さんを褒めるように、ぜひ自分自身も褒めてください。自分自身を笑顔にすることこそ、大切な人の笑顔に繋がると思えます。



## 《 子育て中の皆さん、子育てお疲れ様です 》

「お仕事お疲れ様です」って言葉は聞くけど、「子育てお疲れ様です」って言葉は聞かないですよね。私は声を大にして言いたい。子育てお疲れ様です！

私は、子どもを産んで愛情をかけて育てたら、私が育ってきたように育つと思っていました。でも我が子が学校に行かなくなったことで、それまでの自分の子育ては正しかったのか？と疑問しました。何がいけなかったのだろう… いろいろなところで話を聞いてもらううちに、子育てには正解は無いのではないかな…と思うようになりました。そこで出会った方たちの試行錯誤の子育てに考えさせられ、気づきをもらい、少しずつ我が子のことを理解し自分のこともわかってきました。私は子育て中の皆さんには、誰かと話をしてほしいと思っています。

話をすることは勇気もいることですが、ぜひ自分のために。



さいごに・・・。

子育ての先輩たちの体験談を読んでもいただき、ありがとうございました。私も子育てのこと、誰かと話してみたいなと思ってくれたら嬉しいです。

元来、子どもはみんな違っていいのです。周りとは比べずに、我が子の成長を喜べるようにになりたいものです。私たちの経験が少しでも皆さまのお役に立てたら幸せです。